

※脚韻は下平声「先」韻。韻字は「筌、蓮、捐、愆」である。

訓読

- 121 厭離をんりす今の罪網  
122 恭敬くきやうす古の真筌しんせん  
123 皎潔けうけつたり空觀の月  
124 開敷かいふす妙法の蓮  
125 誓弘せいぐして誑語無く  
126 福厚たうえんくして唐捐たうけんせず  
127 熱惱ねつなうの煩わづかい纒むすに滅し  
128 涼氣りやうきの序愆あやまつこと罔なし

口語訳

- 121 (私は)今のこの世の罪業と欲望とを厭い嫌って、それらから遠く離れることとし  
122 古えの真の悟りを、謹んで敬うことにしよう。  
123 (空を仰げば)一切のものはすべて空であるという真理の月が白く穢れなく輝き  
124 (地には)仏法の妙法(絶対の真理)をあらわすという蓮の花があまねく開いているのが見える。  
125 仏や菩薩が一切衆生をすくわんとする広大な誓願にうそ偽りがあるはずがなく、  
126 それによって救われる幸せは十分に厚いのであるから、その誓願が作り話として空しく捨て去られるとい  
うことは、決してないだろう。